

会員の声

小杉健郎さんの思い出

矢治健太郎（立教大学）

昨年11月26日、日本科学未来館での科学イベント「サイエンスアゴラ」の会場で小杉健郎さんの訃報を知りました。聞いた瞬間、「え？何かの間違いでは」と耳を疑いました。というのも、その前日、NHKの「サイエンスZERO」に小杉さんと出演したという人の話を聞いていただけに、昨日の今日で「そんなまさか」と思った次第です。

小杉健郎さんは、国立天文台や宇宙航空研究開発機構で、太陽物理学、特に太陽フレアの研究において常に最前線にいた方です。「ひのとり」「ようこう」で中心的役割を果たし、2006年9月23日に打ち上げに成功した太陽観測衛星「ひので」のプロジェクトマネージャーでもありました。同時に、天文教育普及研究会の会員でもありました。今回の訃報に接し、故人の冥福を祈るとともに、ここに小杉さんの天文教育普及に関する一面を紹介したいと思います。

小杉さんとの出会いは、1991年10月頃だったと思います。当時、わたしは東京大学教養学部の宇宙地球科学教室の大学院修士1年でしたが、太陽観測衛星「ようこう」の打ち上げが成功し、「矢治君、太陽好きだったよね。『ようこう』のデータ解析に興味はないか」と研究室の教授から、小杉さんを紹介されたのがきっかけでした。太陽の、しかも「ようこう」のデータに触れられる、ということでその話に飛びついたのは言うまでもありません。以来、大学院にいる間、小杉さんには研究面で非常に厳しく指導を受けました。学振の応募書類で「こんな文章で金が取れると思うな」とか、データ解析を進めながら「何かおもしろいことが見つかったら知らせてくれ」とか、「やりたいサイエンスがあるから観測装置をつくるんだ」など、「研究とは何

か」ということをいろいろな形で教えていただきました。他人にも厳しい方でしたが、自分にも厳しい方で、決して妥協を許さないのが、小杉さんの姿勢でした。わたしがポスドクの相談をしたときも、「ポスドクは将来就職のあてがある者がするものだ。君は研究者には向いていない。もう（研究者は）やめたら。」と言ったのも小杉さんでした。さすがに、そのときはわたしもがく然として、非常に落ち込んだものです。

そんな厳しさの反面、わたしの教育普及能力をエンカレッジしてくださったのも小杉さんでした。「君って文才あるんだね。」これは、大阪市立科学館の友の会の会報にわたしが、「ようこう」の解説文を書いた時のことです。このとき、わたしは先の学振の応募書類、総研大の願書、修論の執筆で、小杉さんにこれでもかこれでもかと厳しく指導（つまり、ダメだし）されていたときで、初めてほめられた文章がその友の会の会報の原稿だったので、かなり複雑な気持ちでした。しかし、小杉さん自身もいろいろなところで、天文雑誌や新聞に太陽に関する解説文を書いています。「星の手帖」の太陽特集の記事や、「宇宙と天文No.4 特集・太陽に挑戦」（誠文堂新光社）などが記憶に残っています。

「君は星の話をするのがうまいから、博物館とかに進んだ方がいいんじゃないか」とわたしの進路を示唆してくださったのも小杉先生で、それがきっかけで前職のかわべ天文公園に就職することになりました。

小杉さんは研究者としても素晴らしい方でしたが、天文教育普及活動にも熱心な方で、いろいろな科学館や公開天文台で講演をされています。わたしが働いていたかわべ天文公園にも来ていただきましたし、ほかにもいろ

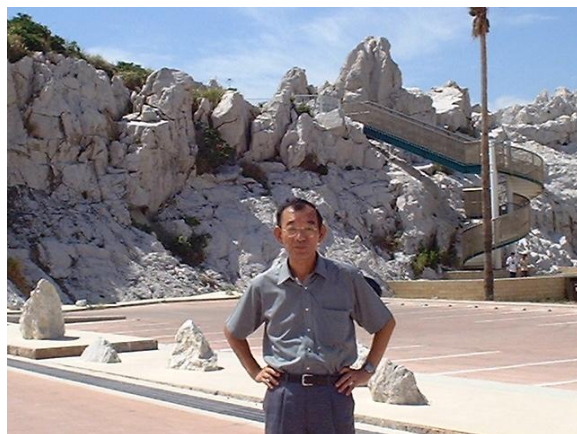
んな施設に足を運ばれました。わたしが何かで小杉さんの講演のことを知って、「今度どこどこで話すらしいですね」と言うと、決まって、「ことわりきれなくってさあ」とか「なんで俺がやらなきゃいけないんだ」と、照れ隠しのように言っていました。昨年1月も科学技術館で開催された国立天文台主催の公開講演会で、講師の一人を務められました。

宇宙研にたまに顔を出すと「矢治君いいところに来た、助けてくれ」というのが口癖のようなものでした。そのたびに、展示企画を手伝ったり、ビデオに出演したり、一般公開の説明係を頼まれたりしたこともあります。昨年5月末には、小杉さんの依頼で、鹿児島県内之浦の小学校に、太陽の話をしに行きました。研究面ではお世辞にもいい弟子ではありませんでしたが、こういう形で師匠に頼られるのはうれしいものがありました。

このように、小杉さんの思い出やエピソードを書きだすと、ほんとうにきりがありません。

昨年の暮れ、12月16日のNHK教育テレビ「サイエンスZERO」に小杉さんが出演していました。冒頭で触れた、倒れる直前に収録されたものです。この日のテーマは「見えてきた“宇宙の謎”日本の最新天体観測」。「ひので」のみならず「あかり」「すざく」「はるか」といった日本の科学衛星の最新成果を、丁寧にきみくだいて説明している姿が印象的でした。

「ひので」の観測成果がこれから続々出ることで、小杉さんはこれまで以上に多くの人たちに太陽という星のおもしろさを伝えてくれたはずですが、そんな時期の突然の不幸に、残念でなりません。小杉さんの意志を引き継ぎ、これまで以上に、太陽研究の成果を伝える役割を果たしていきたいと思います。



小杉さん（和歌山県の白崎海洋公園にて）

矢治健太郎